

信州のスポーツ

報告書

(2013年12月6日～2014年1月7日調査)

I	調査の設計	1
II	調査のポイント	5
III	調査の概要	6



一般社団法人 長野県世論調査協会

Tel 026-233-3616 Fax 026-233-3610

<http://www.nagano-yoron.or.jp>

I 調査の設計

◆ 調査の目的

2011年に50年ぶり全面改正されたスポーツ基本法が施行され2年半。スポーツが国民の心身の健全な発達、明るく豊かな国民生活の形成、活力ある社会の実現や国際社会の調和ある発展に寄与することを目的に国も県も施策を展開している。

長野県ではプロスポーツチームも定着し、スポーツを通じた地域づくりや自分の健康づくりに関心が高まってきているように見える。

ソチ冬季オリンピックを前に郷土のプロスポーツ、健康づくり、オリンピックに関して県民の意識を探った。

◆ 調査の設計

▽調査対象	長野県内に住む20歳以上の男女800人
▽抽出方法	層化三段無作為抽出法。対象者は各市町村の選挙人名簿から抽出
▽調査方法	郵送（一部ファクス、インターネット回収）
▽調査期間	2013年12月6日～2014年1月7日
▽調査地点	19市5町6村（計30市町村）

◆ 回収結果

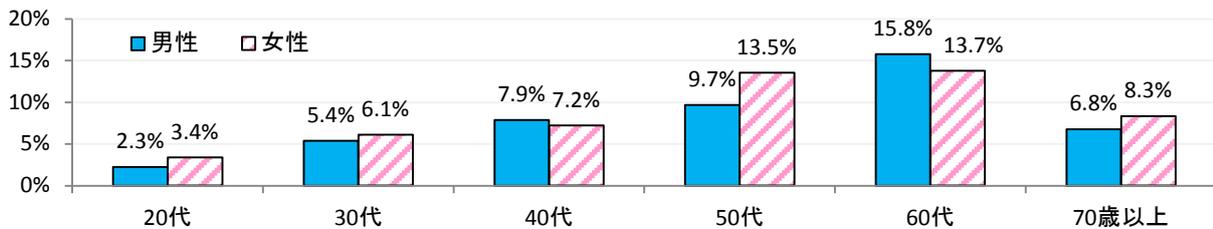
▽有効回収数	444人（回収率55.5% 男性212人 女性232人）
	郵送 393人（88.5%）
	ファクス 26人（5.9%）
	インターネット 25人（5.6%）

<注>報告書のパーセント数字は小数点第2位を四捨五入。合計が100にならない場合がある。
見出し、文中は原則として小数点第1位を四捨五入して表記した。

回収サンプルの内訳

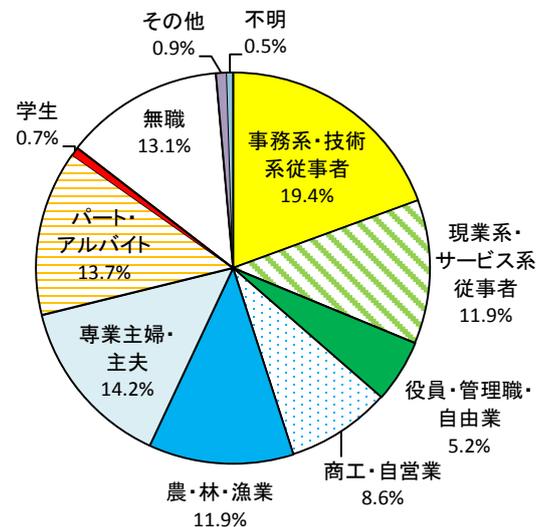
【性別と年代】

	合計	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
全体	444 100.0	25 5.6%	51 11.5%	67 15.1%	103 23.2%	131 29.5%	67 15.1%
男性	212 47.7%	10 2.3%	24 5.4%	35 7.9%	43 9.7%	70 15.8%	30 6.8%
女性	232 52.3%	15 3.4%	27 6.1%	32 7.2%	60 13.5%	61 13.7%	37 8.3%



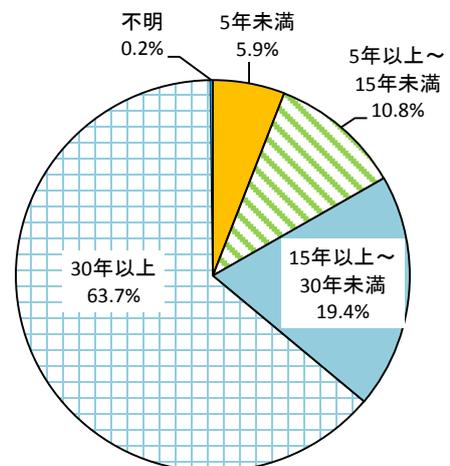
【職業】

事務系・技術系従事者	86	19.4%
現業系・サービス系従事者	53	11.9%
役員・管理職・自由業	23	5.2%
商工・自営業	38	8.6%
農・林・漁業	53	11.9%
専業主婦・主夫	63	14.2%
パート・アルバイト	61	13.7%
学生	3	0.7%
無職	58	13.1%
その他	4	0.9%
不明	2	0.5%



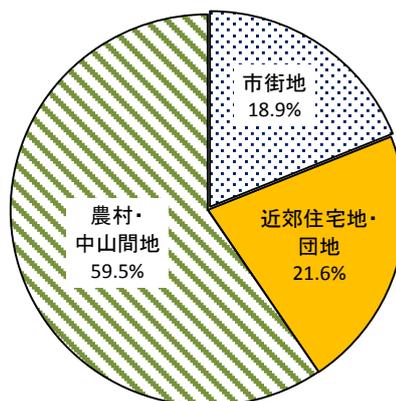
【居住年数】

5年未満	26	5.9%
5年以上～15年未満	48	10.8%
15年以上～30年未満	86	19.4%
30年以上	283	63.7%
不明	1	0.2%



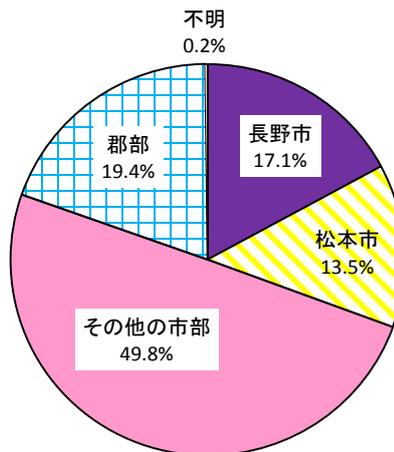
【地域性】

市街地	84	18.9%
近郊住宅地・団地	96	21.6%
農村・中山間地	264	59.5%



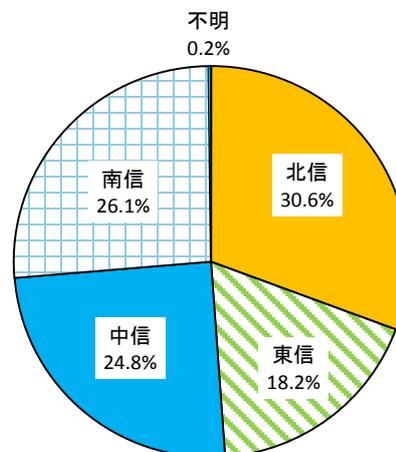
【市町村】

長野市	76	17.1%
松本市	60	13.5%
その他の市部	221	49.8%
郡部	86	19.4%
不明	11	0.2%



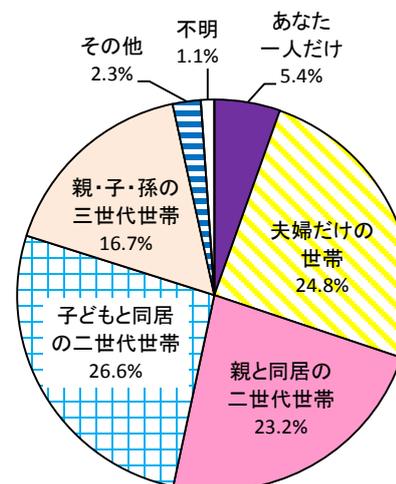
【地域】

北信	136	30.6%
東信	81	18.2%
中信	110	24.8%
南信	116	26.1%
不明	11	0.2%



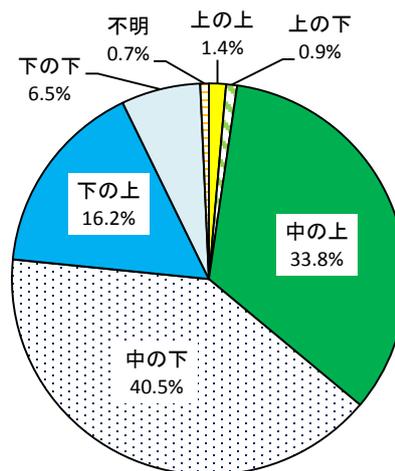
【同居家族】

あなた一人だけ	24	5.4%
夫婦だけの世帯	110	24.8%
親と同居の二世帯世帯	103	23.2%
子どもと同居の二世帯世帯	118	26.6%
親・子・孫の三世帯世帯	74	16.7%
その他	10	2.3%
不明	5	1.1%



【暮らし向き】

上の上	6	1.4%
上の下	4	0.9%
中の上	150	33.8%
中の下	180	40.5%
下の上	72	16.2%
下の下	29	6.5%
不明	3	0.7%



II 調査のポイント

スポーツによる地域活性化に高い期待感

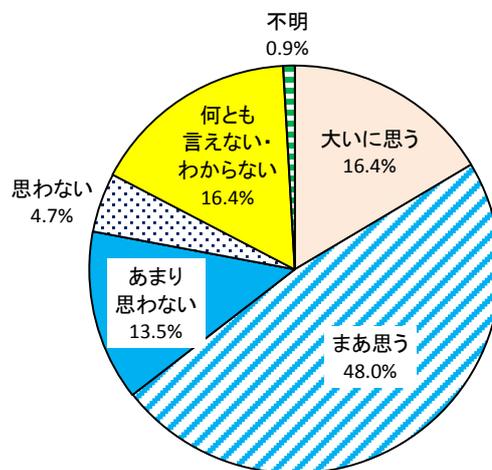
県内にあるプロスポーツが地域の発展につながっていると思う県民は64%に上り、県や市町村がその運営会社に出資したりホーム競技場整備にも過半数が賛成している。スポーツを通じた地域活性化へ県民の期待感が大きく、とりわけ松本山雅FCが本拠地の松本市は他地区に比べ高い数字を示した。

また競技スポーツに県民の77%が関心あり、全体では野球が一番高いものの20代～40代はサッカー、女性はスケート・フィギュアが1位と各層により人気に分かれている。

自分の健康づくりについては8割超が運動不足を感じており、今スポーツ、運動をやっているのは37%に過ぎない。「健康」と「どちらかといえば健康」を合わせると8割が健康だと思っているが、積極的に「健康」と答えたのは31%で文部科学省の全国調査(55%)を下回る。長野県が平均寿命だけでなく健康寿命も日本一になるためには、さらに取り組みが求められそうだ。

オリンピック関係では1998年の長野冬季オリンピック開催を8割が評価、信州で再度開催を望む人も6割に上った。

◆信州のプロスポーツチームが地域の発展や観光につながっていると思いますか



Ⅲ 調査の概要

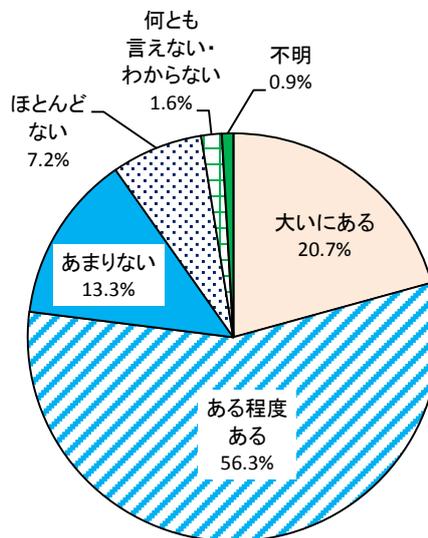
競技スポーツへの関心

関心度とその競技 (問1～2)

◆関心が「ある」全体で77%

日ごろ競技スポーツの試合や選手の活躍に関心が「ある」は、「大いに」(21%)と「ある程度」(56%)を合わせ77%に上る。全体では男女ともほぼ同じだが、「大いにある」は男性が28%、女性が14%と度合いの差が大きい。年代別では「大いにある」が高いのは30～40代、70歳以上で2割を超えている。

地域別で北信が全体で82%と高いものの、「大いに」だけを見ると中信が23%で最も高い。暮らし向きを「下の下」と思っている人は「ある」が半数に達せず、他の層に比べ関心が低い。

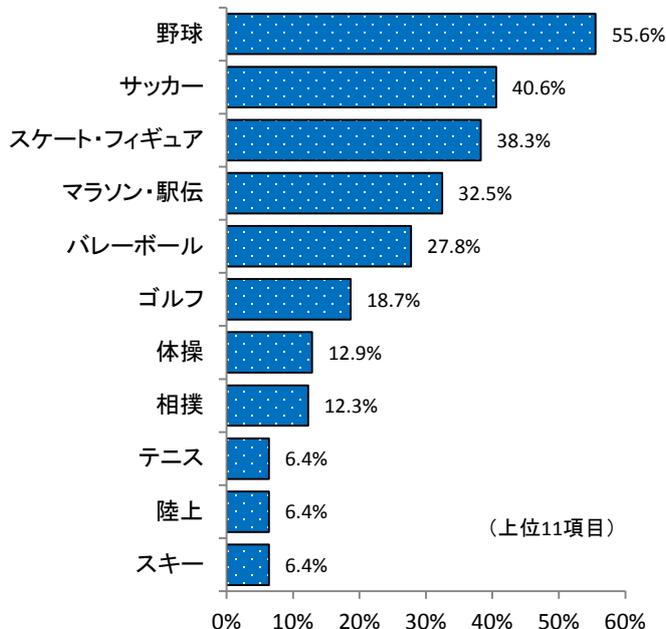


◇関心が高いのは「野球」「サッカー」「スケート・フィギュア」

関心が「ある」と答えた人に聞いたそのスポーツ(3つ以内選択)は「野球」56%、「サッカー」41%、「スケート・フィギュア」38%がベスト3で「マラソン・駅伝」33%、「バレーボール」28%までが2割を超えた。

男女差が大きく男性は「野球」が71%と断トツの1位に対し、女性は「スケート・フィギュア」が60%で一番高い。年代別では20～40代が「サッカー」、50代以上が「野球」を1位に挙げ、世代間ではっきり分かれた。特に60代以上は「スケート・フィギュア」「マラソン・駅伝」を「サッカー」より上位に挙げ、Jリーグ誕生時(1993年)に40歳以上か以下での違いが表れている。

「野球」は北信66%、東信43%、「サッカー」は中信44%、北信37%と地域間での差も大きい。

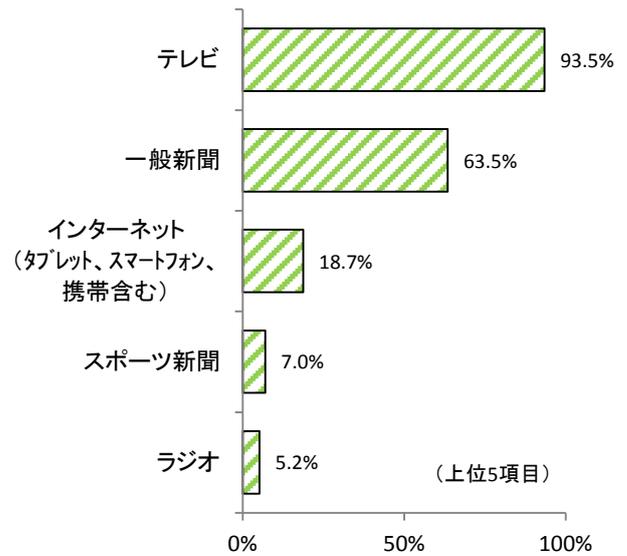


スポーツ情報はどこで？

(問3)

◆「テレビ」94%、「一般新聞」64%

スポーツの情報を主にどこで見たり読んだりするか、2つ以内に絞って答えてもらった。「テレビ」が94%と圧倒的に多く「一般新聞」は64%、「インターネット」19%だった。各年代とも「テレビ」優位は変わらないものの、20代と30代は「インターネット」を2番目に挙げる。県内にもスポーツ無料紙(誌)が登場したが、まだ浸透していないようだ。



県内プロスポーツ、競技場での観戦

(問4)

現在、信州にある4つのプロスポーツチームについて、実際に競技場で見たことがあるか、今後見てみたいかを個々に聞いた。

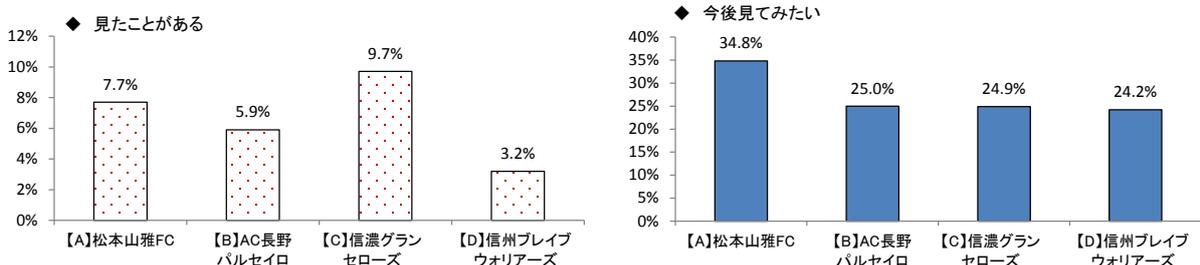
◆松本山雅FC「見てみたい」35%

A 松本山雅FC 全体では「見たことがある」が8%だが、20代は24%、地元である松本市は13%と高い。また「見たことがない」人で今後「見てみたい」は35%に上り、他の3チームより松本山雅への関心が高い。

B AC長野パルセイロ 「見たことがある」が6%で、地元長野市は9%。今後「見てみたい」が25%だが、長野市は3人に1人が意欲的だ。

C 信濃グランセローズ 「見たことがある」10%と全体の数字では一番高かった。男性と40代、60代が10%以上、地域別では南信が14%と高い。今後「見てみたい」は25%、練習の拠点がある中野市を含む北信が31%で高め。

D 信州ブレイブウォリアーズ 4チームでは一番後発のためか「見たことがある」は3%にとどまる。ただ今後「見てみたい」は24%で、AC長野パルセイロ、信濃グランセローズとほぼ同水準だ。とりわけ30代が38%と意欲が高い。



サポーターズクラブや後援会への入会

(問5)

◆「松本山雅FC」へ松本市民の5%

実際にサポーターズクラブや後援会に入り応援しているのは「松本山雅」が全県で3%だが松本市は5%、中信が6%と高めだ。「信濃グランセローズ」が2%、他の2チームは1%未満。加入していない(無回答)が95%。

(注) 4チームとも後援会があるが、まだ歴史は浅い。松本山雅FC後援会の2010年発足が初めてAC長野パルセイロは13年7月設立だ。松本山雅FCは13年9月現在法人会員117口、個人会員367口とホームページで公表している。このほか株式会社松本山雅が運営するクラブガンズがある。今回調査抽出対象は選挙人名簿なので、仮にそれを基に推計すると松本市民の入会は選挙人19万4千人余(13年12月現在)の5%、9700人余にあたる(20歳未満は対象外)。

同様に全県で4チームの後援会やクラブなどに加入(重複あり)しているのは、県内の選挙人名簿174万人余(13年12月現在)の5%にあたる8万7千人余(20歳未満を除く)と推計される。

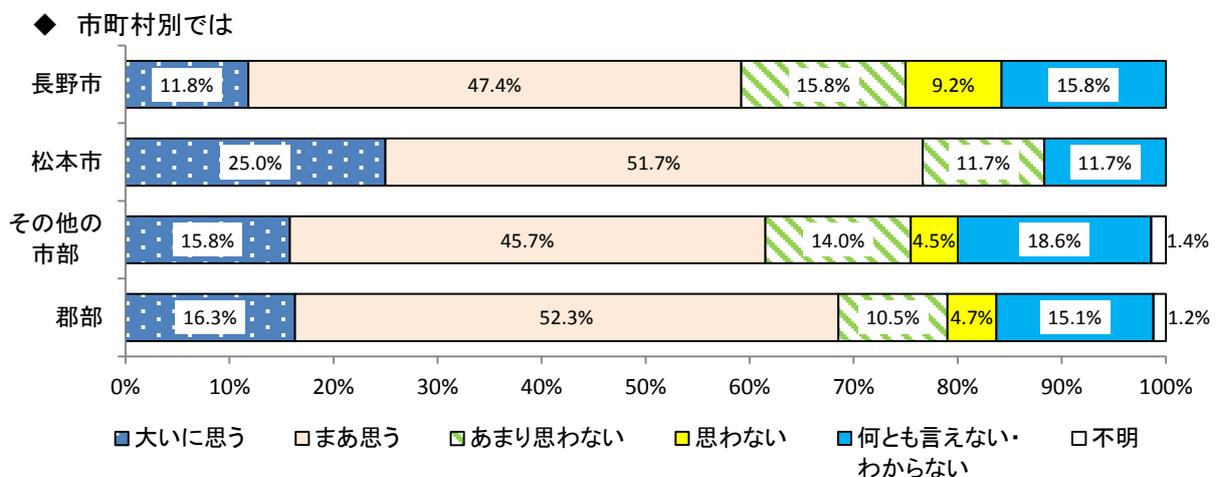
プロスポーツと地域の発展や観光

(問6)

◆「つながっていると思う」64%

信州のプロスポーツチームが地域の発展や観光につながっていると「大いに思う」16%、「まあ思う」48%を合わせ64%が効果を認めている。特に松本山雅FCの本拠地松本市は「大いに思う」だけで25%、「まあ思う」52%を合わせ77%に上り、観光客、経済効果の大きさを実感しているようだ。

3チームの本拠地がある北信は「思う」が63%、チーム本拠地がない東信が64%、南信は61%。

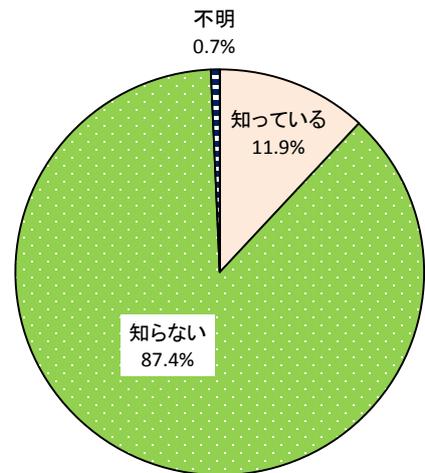


県とプロスポーツチームの連携

(問7)

◆87%が「包括協定」を知らず

長野県、県体育協会、県障がい者スポーツ協会が2012年にプロスポーツチームと「スポーツによる元気な信州づくり包括連携協定」を結んだことについて「知っている」12%、「知らない」87%と県民の認知度が低い。「知っている」のは70歳以上の24%が最高で20代～30代は5%に満たない。官民連携で長野県を元気にする方策は、協定締結から1年半以上経ったがなお課題が多いと言える。



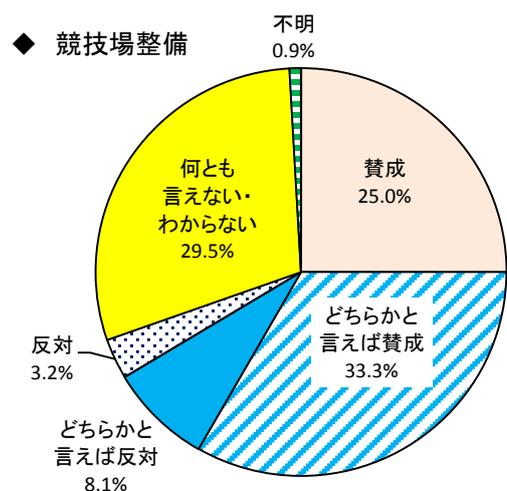
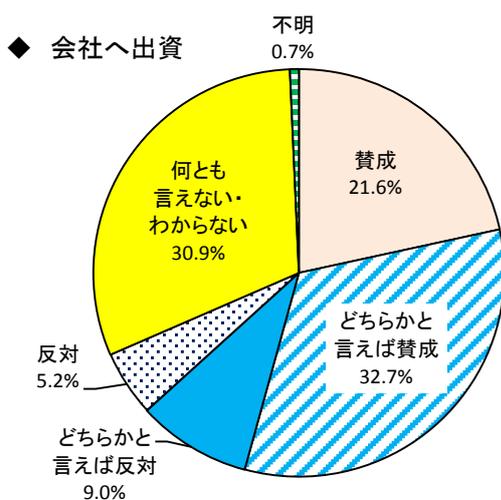
自治体によるプロスポーツ支援

(問8～9)

◆出資、競技場整備ともに「賛成」が過半数

自治体がプロスポーツ会社に出資したりホーム競技場の整備、管理することについて尋ねた。「賛成」が出資54%、競技場整備・管理58%といずれも半数を超えた。「反対」は両方とも15%以下。ただ「何とも言えない・わからない」の態度保留がほぼ3割で、全面的に賛成しているとは言えない。

長野市と松本市に絞って賛成派を比べると出資53%対68%、競技場整備58%対67%で、両方とも松本市が大きく上回る。



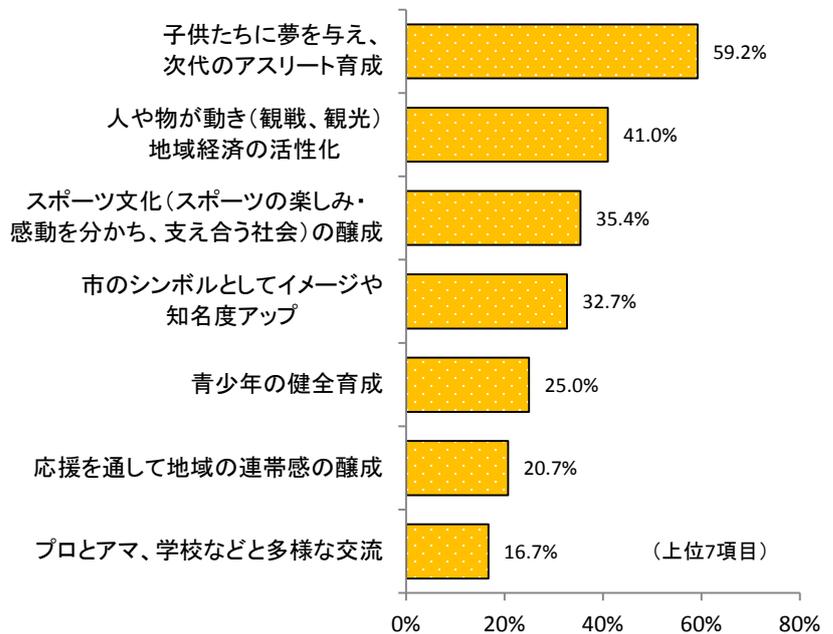
プロスポーツ振興による期待

(問 10)

◆「子どもたちに夢、次代のアスリート育成」がトップ

信州のプロスポーツ振興でどんなことを期待するか、3つ以内に絞り選んでもらった。「子どもたちに夢を与え、次代のアスリート育成」が59%でトップ、「人や物が動き（観戦、観光）地域経済の活性化」41%、「スポーツ文化（スポーツの楽しみ・感動を分かち、支え合う社会）の醸成」35%、「市のシンボルとしてイメージや知名度アップ」33%、「青少年の健全育成」25%が続く。

「子どもたちに夢」は年代や職業、地域など、ほとんどの属性を通じて1位に挙げられた。「地域経済の活性化」は高齢層より20代～50代の期待感が強い。



スポーツと健康づくり

現在の健康状態

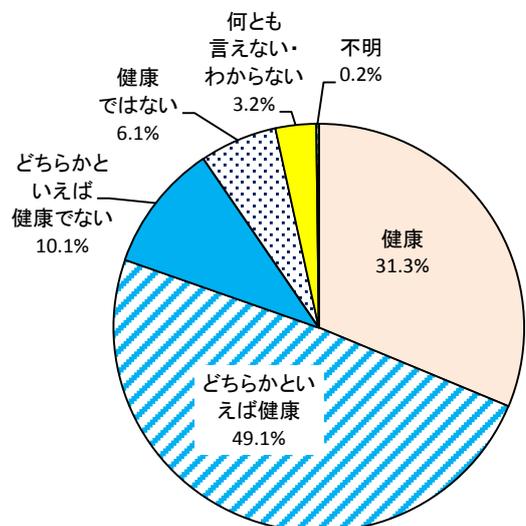
(問 11)

◆「健康」だと思ふ、8割

現在の自分について「健康」31%、「どちらかといえば健康」49%を合わせ8割が健康だと思っている。ただ男性74%、女性86%と自覚に12ポイントの差がある。年代別で最も健康だと思っているのは50代の88%、低い70歳以上でも75%を示す。

地域別では中信86%と高く、低いのは北信の77%。また暮らし向きを「下」と思っている人は「健康でない」と答えた比率が高い。とりわけ「下の下」と思っている人は「健康」が5割に達せず、3人に1人は「健康でない」と答えている。

(注) 文部科学省が2013年1月実施した「体力・スポーツに関する世論調査」(以下文科省調査と



略)によれば「健康である」55%、「どちらかといえば健康である」32%で、87%が健康と答えており、今回の県民調査より高い。文科省調査では特に「健康である」と答える人が高齢者を除き半数以上で、「どちらかといえば健康」が多い長野県民は控えめの印象を受ける。

2012年発行の『日本でいちばんいい県 都道府県別幸福度ランキング』（日本総合研究所編）で長野県は健康分野で1位だったが、健康寿命は13位になっている。

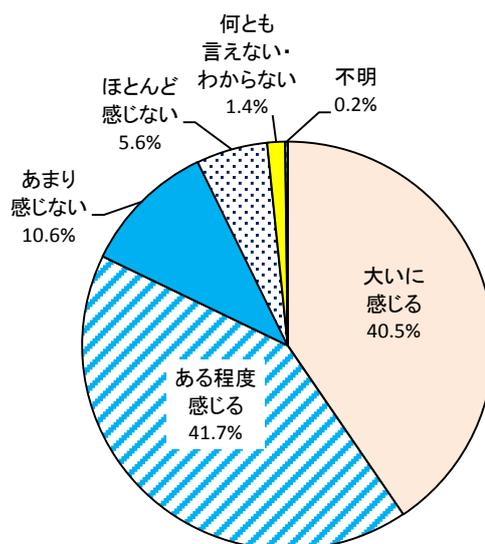
運動不足を感じるか (問12)

◆ 8割超が運動不足を自覚

普段運動不足を感じているかどうかでは「大いに感じる」41%、「ある程度感じる」42%と8割以上が自覚している。「感じる」のは全体で男性77%、女性87%と男女で10ポイントの差。大半の属性で8割以上が運動不足と感じており、特に役員・管理職・自由業は96%に達する。

運動不足と「感じない」人が多いのは70歳以上の22%。

(注) 文科省調査は「大いに感じる」32%、「ある程度感じる」43%で感じている人は75%。長野県民の方が運動不足と思っている割合が約8ポイント高い。



スポーツ・運動をやっているか (問13~14)

◆ 「やっている」のは37%で少数派

今、何かスポーツや運動を「やっている」37%、「やっていない」62%で、「やっている」人はほぼ3人に1人とどまる。「やっている」割合は男性45%に対し女性は30%と15ポイントも差がある。また若い年代の方が「やっていない」傾向が見られ40代76%、20代72%に上る。

「やっている」のは地域別で中信が44%と高く、低い北信の27%とは16ポイント余の差。さらに暮らし向きとも関係が見られ、「下」と思っている人は7割以上が「やっていない」。

県の総合5か年計画では、平成29年度に運動・スポーツ実施率65%を目標にしている。

